

大豆における生育センシングと可変施肥技術の試行 (空知農業改良普及センター中空知支所)

背景

【新十津川町総進4・5地区の概要】

○耕作面積233haで、水稻を基幹とした水田複合経営が行われている

○平成30～令和2年頃にかけて、高齢農業者の経営規模縮小等により、規模拡大志向農業者への農地集積が進行した

○町の補助事業を活用し、水稻の防除を主目的としたドローンが普及している

【地域の課題】

○土地利用型作物の安定生産

○労働力不足や規模拡大に対応する省力化や軽労化技術の導入

○水稻以外の作物に対するドローンの活用

普及活動内容

○農業者が大豆ほ場で自ら所有するドローンを活用し、生育センシングと可変施肥を試みた



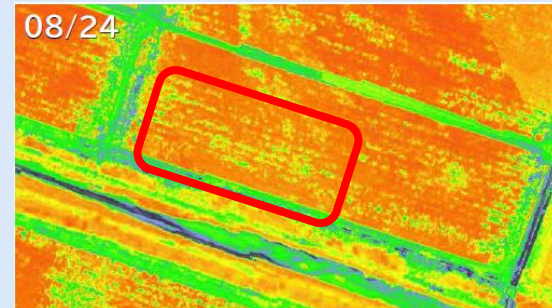
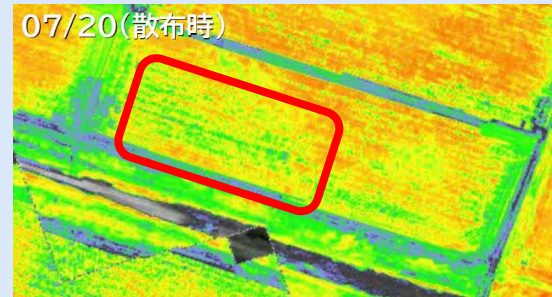
○農業者とデータ解析を行う民間業者の双方の相談役を普及センターが担った



普及の成果

【具体的な成果】

○開花期の窒素可変施肥により、ほ場内の部分的な生育不良が改善され、農業者からも高評価



【成果のポイント】

○農業者のニーズと民間業者の解析技術がマッチング

【成果活用の留意点】

○追肥量などの指標がないため、継続検証と事例蓄積が必要